

○スマート農業関連

〈小規模〉

- ・水管理の自動化
- ・リモコン式草刈り機
- ・ドローンの利用
- ・農業機械のシェアリング、リース
- ・作業の受託組織
- ・作業受託組織(シルバー人材センター)の設立

→せたな区の横山一康氏が考えている構想。

対象者：60代以上の高齢者。

参考：R04-一時フォルダ-当麻高齢者事業団 格納。

- ・農業の働き方改革（どこを任せ、どこをどう管理するのか）
- ・ドローンを活用した防除の共同化

→防除機が無いや、防除をしない農家が多いように見受けられ、品質に影響が出ている気がする。今金の水稲防除用ヘリは部会持ちだそうである（委託業者が来てくれない、2台のうち1台は更新対象）。畑作物の面積も少ないので、中途半端感がある。今後田畑輪換が必要となるのであれば、畑作物の面積も増える？畑作物、水稲のどちらでも対応できる防除組織の検討。

- ・ハウス環境モニタリング機器（ミニトマト・潮トマト）
- ・ハウス自動換気、自動灌水

○技術伝承システムの構築(新規参入者および、若手農業者への技術支援)

- ・熟練農業者の技術や知恵の見える化
- ・農福連携や短期的なアルバイト労働者用の作業手順書の作成
- ・作業受託組織へのオペレーター登録（若手農業者の育成と小遣い稼ぎを両立）
- ・指導農業士や農業士を活用した農業塾の開催
- ・新規耕作者への支援（資材費支援など）

### ○労働力補完

- ・農福連携

人手が必要な単純作業は取り組みやすい。  
作業を単純化、細分化することにより、対応できる作業が増える。

- ・デイワークアプリによる労働力の確保
- ・共選の導入
- ・ // (ミニトマト)

### ○超省力化

- ・各作物の初期除草の省力化（省略化、適期実施）
- ・てん菜栽培作業の省力化  
直播栽培によるは種作業委託→管理作業（自家で管理）→収穫（堀上げ）  
（または、糖業会社からの播種機および収穫期のリース）機械リース
- ・黒毛和牛繁殖雌牛の放牧管理＋連動スタンション導入による省力化  
（飼養頭数の増加に伴う牛舎建設費用削減と清掃・給餌作業の省力化）  
（労力を投入すべき牛と、そうではない牛の明確化）
- ・分娩監視システム（カメラ等）の導入
- ・ブロッコリー直播栽培
- ・ブロッコリー収穫機の導入
- ・

### ○新規作物の導入

- ・省力化向け輪作作物の導入（子実コーン、イアコーン、さつまいも）
- ・ソフトグレインサイレージ（SGS）の生産・利用
- ・イアコーン、SGSは圧ペンとうもろこしの代替え
- ・道南の地域特性を生かした新規作物の導入
- ・露地長葱の導入
- ・かんしょの導入

## ○地域ブランドの創成(農畜産物、加工品など)

### ・農泊(民泊、農家民宿)の取り組み

→規模拡大できるのは一部の後継者のいる農業者に限られると思われるため、新規参入などの受け入れも必要。新規参入の場合は、経営が安定するまでの間は所得確保が必要だが、檜山北部管内には農業以外の産業が無い。農家民宿を行いながら、冬場も含めた所得確保を目指す(東京農業大学の学生による事例調査論文あり)。

→修学旅行生の受け入れで見ると、全道的に受け入れ地域は減少しており、需要に対して供給がおいていない。また、修学旅行の場合は、旅行ルートの関係で札幌近郊が好まれる可能性があり、北海道新幹線も函館～札幌の間に位置する檜山は、地理的にも可能性があるかもしれない。

(長万部からのバス送迎が必要)

→海も近いので、漁家とも連携した体験学習も可能では(いくら醤油漬けとか)。

(せたなは、日本海側よりも魚種が多いそうで、釣りの聖地と言われている。)

(八雲、長万部の農泊組織が、農+水で連携した活動を行っている)

→蘭越町の(有)マルベリーで修学旅行生の農泊、農業体験プログラムを企画・運営している。登録農家は農業体験を受け入れ、見返りに報酬を受け取っている。話を聞いてみてもよいのでは？

### ・北海道一早い!ばれいしょ収穫体験ツアー

→今金だんしゃくのG1取得で、馬鈴薯の産地としての知名度は向上。また、マルチ栽培は、道南のみにある栽培方法で収穫時期も全道一早いと思われる。人を呼び込む仕掛けの一つとして検討してみてもどうか

・檜山北部「男爵肉まん」プロジェクト(今金町:男爵いも、牛肉など、せたな町:男爵いも、豚肉、牛肉など)

## ○作物等の生産性を向上させる技術

### ・イアコーンサイレージの栽培(畑作の輪作体系に組み込む)

酪農家→イアコーンサイレージによる濃厚飼料の自給率向上

畑作農家→茎葉の土壌還元による緑肥効果

### ・景観緑肥の栽培(ひまわりなど)

→畑作物に、堆肥の還元が少ないのでは?と思われるが、景観緑肥を栽培し土作りを推進する。具体的には、秋まき小麦後の「ひまわり栽培」など。基盤整備で地力が低下したほ場にも有効ではないかと思われる。面積が大きい農家なら休閒緑肥でも良いのでは。

### ・水稻倒伏マップの作成

→成熟期頃に倒伏しやすいほ場について、ほ場マップを作成し、土壌断面調査や施肥改善を行う。おそらく下層土に泥炭を抱えていたり、施肥コントロールが難しいと思われる。移植は疎植+減肥の組み合わせなど。今後直播が増えるとなると、倒伏させないで作るのは課題と思われる。

### ・緑肥の導入(えん麦野生種)